

令和元年度実施施策に係る政策評価書

(内閣府1-42(政策13-施策4))

政策名	共生社会実現のための施策の推進					
施策名	バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進に関する広報啓発、調査研究等					
達成すべき目標	バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進要綱に基づく施策を着実に推進する。					
施策の概要	【施策の概要】 社会全体のバリアフリー・ユニバーサルデザインに関する取組を一層推進するため、「バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進要綱」に基づき、その推進に関して功績のあった者に対する表彰による優れた取組の普及・啓発の促進を図る。					
	【令和元年度に実施した具体的取組】 バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進について顕著な功績のあった者を顕彰し、優れた取組を広く普及させることを目的として、「バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰」を実施した。また、的確に国民のバリアフリーに関する現状の認識・評価や将来のニーズを把握するため、「バリアフリー・ユニバーサルデザインに関する意識調査」を行った。					
施策の予算額・執行額 (単位:百万円)	区分	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	
	予算の状況	当初予算(a)	4	4	4	3
		補正予算(b)	0	0	0	0
		繰越し等(c)	0	0	0	
		合計(a+b+c)	4	4	4	
執行額	2	2	2			
施策に関係する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)	-					

測定指標	区分	主要な指標	測定指標	施策の実績・進捗状況							
				基準値	目標値	年度ごとの目標値					達成状況
						年度ごとの実績値					
□	定量的指標	1. バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰の推薦数(指標の名称)	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	△		
			54件	50件	23件	33件	29件	33件		28件	
【測定指標の定義及び選定理由並びに目標値(水準・目標年度)の設定の根拠】 バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰は、高齢者、障害のある人、妊婦や子供連れの人を含む全ての人が安全で快適な社会生活を送ることができるよう、ハード・ソフト両面のバリアフリー・ユニバーサルデザインの効果的かつ総合的に推進する観点から、その顕著な功績が又は功労があった者に対して表彰を行い、その優れた取組を広く普及させることとしている。その普及状況を測定するために、表彰によりバリアフリー・ユニバーサルデザインの推進への機運が高まることにより更なる推薦につながっているかを図ることとし、平成19年度の水準である50件を目標値とする。											
□	定量的指標	2. バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進に関する検証(ホームページのアクセス数)	26年度	元年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	△	
			19,545件	20,000件以上	15,912件	14,888件	14,215件	15,874件	15,684件		
【測定指標の定義及び選定理由並びに目標値(水準・目標年度)の設定の根拠】 バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進のため、バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰を実施し、その優れた取組をHP等により広く普及させるとともに、バリアフリー・ユニバーサルデザインに関する意識調査を実施し、広く国民に情報提供をしており、その効果を測定するために、ホームページのアクセス数で検証するものとする。											

参考指標	1. 建築物のバリアフリー化が進んだと思う人の割合	実績値				
		27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
	42.7%	39.6%	40.0%	40.3%	32.2%	
	2. バリアフリーの認知度	実績値				
27年度		28年度	29年度	30年度	令和元年度	
93.6%	92.0%	95.7%	95.8%	94.9%		

評価結果	目標達成度合いの測定結果	(各行政機関共通区分) ④ 進展が大きくない (判断根拠) -
	施策の分析	【測定指標の観点からの分析】 測定指標1(バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰の推薦数)については、推薦員(各省及び都道府県・政令市)に積極的に推薦いただけるよう依頼したが、推薦件数の目標としては未達となった。 測定指標2(バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進に関する検証(ホームページのアクセス数))については、バリアフリー・ユニバーサルデザインに関する意識調査やバリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰について掲載し、数年前の水準よりは増加してはいるが、目標としては未達となった。 ただし、表彰については優れた取組が多く推薦され、表彰式に安倍総理が出席されることで、多くのマスコミが取材に訪れ、表彰事例が広報・啓発されるとともに、内閣府ホームページにおいても表彰された優れた取組や意識調査結果を掲載するなどの広報・啓発を行い、一定の成果は挙げたと考える。 【外部要因等事前に想定できなかったことにより実績に与えた影響】 -
	次期目標等への反映の方向性	【次期の施策の方向性について】 引き続き推進 【次期の測定指標の考え方について】 測定指標1については、これまでも推薦を積極的に依頼してきたが、自治体に寄せられた候補の中から、優れた取組の候補に絞って推薦し、そのための推薦された事例には優れた取組が多く、現状において普及・啓発に支障がないことから、今後は現状と同程度の推薦数の維持を目指す。 測定指標2については、平成30年12月に成立した「ユニバーサル社会実現推進法」により、政府が講じた諸施策の実施状況の公表等が法定化されたことを受け、令和元年8月に初めての公表を行った。政府の施策全体を取りまとめた公表している貴重なものとして、関係団体の集まりの場などで紹介していただいたように、今後も多くの重要な公表事項を積極的にホームページに掲載することにより、目標の達成を目指す。 【根拠とした統計・データ等】 「バリアフリー・ユニバーサルデザインに関する意識調査」(令和2年3月内閣府調査)

学識経験を有する者の知見の活用	バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰においては、バリアフリー・ユニバーサルデザインに知見を有する有識者(9名)で構成する選考委員会において意見を聴取している。(8月、10月)
-----------------	---

政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報	「バリアフリー・ユニバーサルデザインに関する意識調査」(令和2年3月内閣府調査)
---------------------------	--

担当部局名	政策統括官(共生社会政策担当)	政策評価実施時期	令和2年8月
-------	-----------------	----------	--------